

# 大学教育だより



## RDHE 2011.3 No.8

Center for Research and Development of Higher Education

大阪市立大学  
大学教育研究センター

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138  
(全学共通教育棟5階)

<http://www.rdhe.osaka-cu.ac.jp/>

### 大学教育だより No.8

#### Voice～学生の声

● 生活科学部学生の阿倍野キャンパス医学部学生訪問インタビュー

#### Campus Inquiry

● ウチの学部・研究科・センターではこんな教育を行っています！  
経済学部・経済学研究科／法学部・法学研究科／理学研究科・数物系専攻

#### OCU Education News

● 市大教育ニュース！ ビクトリア大学 短期英語語学研修と English Café のお知らせ

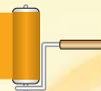
#### Center Now & Human

● 大学教育研究センターの活動・研究・スタッフ紹介

### アン ロゾ (Un roseau) No.12 : 縦書き部分

- 植松 千代美 先生 (理学研究科・理学部附属植物園)
- 矢野 裕俊 先生 (大学教育研究センター)

## Voice ～学生の声



# 生活科学部学生の 阿倍野キャンパス医学部学生訪問インタビュー

### テーマ: 「いのち」「こころ」「からだ」をめぐる学び

2010年12月のある土曜日、生活科学部の3年生4名の学生は医学部阿倍野キャンパスを訪問し、医学部5、6年生4名にインタビューを行いました。これに先立つ11月には、同じメンバーで、第3内科、荒川教授のカンファレンス見学、病棟回診に参加させていただきました。それは白衣を着て、教授回診に参加させていただくという貴重な体験でした。

私たち生活科学部の参加者にとって、インタビューは驚きの連続であり、医学部の先輩からたくさんの刺激を受けました。インタビューは4時間近くにも及び、そのすべてをここに紹介することはできませんが、「いのち」「こころ」「からだ」をめぐる学びを中心に、その一部をお伝えしたいと思います。

自己紹介の後、大学教育研究センターの飯吉先生よりVOICE企画についての説明の後、医学部の中嶋先生の「打ち合わせも何もなくて...(笑)、医学も臨床心理学も、いずれは実際に、患者さんへ違う面から向き合っていくわけだから、かなり共通点があるかなと思って呼びました。先々、お医者さんになる、臨床心理士になるということで、いろんなことを学んでいきたいとみんなそれぞれ考えているでしょう。そういう話や普段の学習の様子を話していただきたいと思います」という言葉を始まりに、



## 生活科学部学生の 阿倍野キャンパス医学部学生訪問インタビュー

生活科学部の学生たちはさまざまな問いを医学部学生に投げかけていった。

### 医学部生の学び

【生A】医学部の5年生、6年生の方は、いつもどんな授業や生活をしてられるのですか。

【医A】1年生のころは、僕らも皆さんと一緒に、杉本キャンパスで皆さんと同じ教室で全学の授業を受けることもありましたが、医学部だけで受ける授業もありました。基本的に一般教養を受けた後、2年生からはずっと天王寺(阿倍野キャンパス)に移って、天王寺から出ないんです。もう閉じ込められてる状態なんですけど、そこから専門の授業に入っていきました。あと、医学部特有かなと思うのが解剖の実習ですがそれも含めて、医学の専門分野の基礎を2年、3年と2年間勉強します。

4年生になったら、これは皆さんと同じなんですけど、実際に患者さんを診るにはどうしたらいいかという臨床の勉強に入っていきます。4年生まではずっと座学で講義を聞いている形式なんですけど、5年生になると、いよいよ病棟で患者さんと対峙します。

【医B】5年の実習は1年間、大病院で2週間ごとに内科や外科のそれぞれの専門科や耳鼻科とか皮膚科などの科を回ります。5人1組の班で各科を回り、その5人に対して小さい講義などもあったりするのですが、実習をしながら、実際に患者さんを診させていただくことになります。一人ひとり、担当する患者さんが決められていて、2週間でその患者さんのことを勉強して、毎日、その患者さんの悩みなどを聞きます。学生という立場で30分とか1時間とかいろいろお話しをして、患者さんの本当の気持ちとかを聞くことができているので、患者さんの気持ちに近い勉強をさせていただいているかなと思います。そんな感じですか。



【医C】少し補足しますね。2年生から4年生までの基礎的な勉強の後に、5年生での臨床にあがるために、OSCEと書いてオスキーと読む試験、およびCBTという2つの試験があります。OSCEのほうは、実技の試験を、面接官が見ている前で、さあやってくださいという形式の試験です。CBTのほうは知識を確かめる試験になっていて、これをクリアしないと臨床の実習現場に出すに値しないというように評価されます。なので、そこに向けて2年生、3年生、4年生は必死に勉強に邁進しています。

医学部の授業はコース立てになっていて、各コース終了後に試験があるので、まとまった試験期間とかがないので、2年生以降はもう2週間ごとに試験があります。

【生B】2週間ごと、大変ですよね。(笑)

【生C】ふだん何時間ぐらい勉強をなされているんですか。

【医B】それは多分、個人差がすごく大きいかと思いますね。やっている人は本当にすごく勉強してますし、逆に、部活動なんか一生懸命やっている学生もいます。もちろんその

場合もテストはしっかりクリアして、そのほかの時間で部活の時間も十分に確保している訳です。

【医A】6年生では、病院での実習と卒業試験が11月までに終わりますので、今の時期(12月)だと、勉強グループをつくって、ほとんど一日中勉強しているという感じですかね。逆に聞きたいんですけど、今の5年生は、実習をしながら実習プラスアルファでどれぐらい勉強しているの。

【医B】どれぐらいと言われると...、やっぱりすきを見て勉強はしている、そういう感じで、その何時間という感覚はちょっとわからないんですけど。

【生C】朝起きてから寝るまでの典型的な1日みたいなのは、どんな感じですか。(笑)

【医B】僕は大体、実習が9時から始まるので、朝6時ぐらいに起きて、6時半か7時前ぐらいに家を出て、学校に8時ぐらいに着いて、1時間学校で勉強してから病院へ。

【生一同】すごい～。

【医B】で、授業の後は、大体、小さい勉強会とかいろいろあるので、それに行ったり、ない日はすぐ帰って、家へ帰ったら、好きなこと、音楽を聞いたりとかやったり、勉強したりとか、そんな感じですね。



【生C】ちなみに、実習って、9時から何時ぐらいまでですか。

【医B】その日によるんですけど、大体9時から4時か5時ぐらいまでです。

【医C】外科とかで担当患者さんが長いオベに入ったりしていると、もう夜の9時とかになったり。生活科学のみなさんはどうなんですか。

【三船】臨床コースで言うと、今3年生で、大学院に進学を希望する学生は、卒論をゼミで研究しながら、8月にある大学院の試験に向けて、3年生後期ぐらいから、そろそろ自主的に勉強会などをやり始めているようです。

【医C】不勉強で申しわけないんですけど、臨床心理士さんのクライアントというか、具体的にはどういった仕事の領域があるのですか。

【三船】領域がたくさんあり、病院臨床というものも1つです。教育関係はスクールカウンセラーとか教育研究所、それから福祉領域は、家庭児童相談所とか、福祉と一緒にやっていくという形がありますね。司法領域、それとあと民間の相談所などです。

### 解剖実習について

【生D】さっきのお話で6年間に学ぶことを伺いましたが、私たちが医学部の勉強と聞いて、最初に思いつくのはやはり解剖です。最初に解剖したときは、どんな気持ちだったの

かとか、今はまたどういう気持ちになっているのかという点が気になるので、教えていただきたいです。

【医D】うちの大学は、たしか最初はサメを解剖し、何か進化の過程というか、魚類、両生類、爬虫類という順に解剖していきます。サメの次がカエルで、カエルの次がラットです。これを、今は1年生からやっていますが、私たちのときは2年生の初めごろにやりました。人の解剖は9月ぐらいから午後、毎日2、3時間使って始まるんです。本音を言うと、最初の1週間ぐらいはやっぱり、大変申しわけない気分がいっぱいでした。解剖していくと、だんだん人間の姿からかけ離れていくので、それが申しわけない感じになるのです。でも人間って不思議なもので、大体1カ月ぐらい毎日毎日やっていると、だんだん慣れてきて、それが普通になってきてしまって、それがまた申し訳ないんです。みなで合同の慰霊祭をします。いつでしたっけ。

【医A】10月の20日前後ぐらいです。

【医D】そうですね。その献体していただいた方の慰霊祭というのがあって、やっぱりそこに行き、お寺に行き、お参りすると、ああ、頑張って勉強せなあかんなあという思いになります。私の担当した方は八十何歳のおじいちゃんだったんですけど、今でもお名前を覚えています。その方に献体していただいて、実際に体の中のものを見ることができたので、その心に感謝して、これから頑張って勉強していこうなと思って日々やっているんです。でもまだまだ至らずという感じです。

【医A】確かに人の解剖って、最初はメンタル的にたいへんな



んですが、でもやっぱりだんだん慣れて、毎日一緒にいたら、慣れるんですね。で、最終的には、逆に愛着がわくまでになって、終わるころには本当にすごい感謝の気持ちもありますし、ご遺体を、まあ僕らのため、医学のために捧げてくださっているということへの敬意、という気持ちになってきましたね、最終的には、本当、頑張らないといけないと思いました。

【医C】やっぱり2回生の9月から12月にかけて、午後1時から夕方5時、6時、ときには7時までずっと解剖の実習をするという期間があったので、やっぱりそのときの経験が今でも残っていますね。手術を見るときでも、自分で本を開いて勉強するときでも、そのときの経験が消えないで残っている感じです。すごくいい経験でした。

【生D】実際に解剖することで、どんなことが学べるのでしょうか。

【医A】解剖の教科書だけではどうしてもわからないような、空間の関係だとか、大事な動脈の走行とか、筋肉の付き方や関節の構造がどうなっているのか、ひとつずつ取り出して、もう本当に全部見せていただいて。

【飯吉】だから3ヶ月とか、それぐらいかかるわけですね。人間の体をそうやって全部知っていこうと思うと、それは大変なことですね。

【医B】死んだら解剖してくれてもいいよ、という方に登録し

ていただける「みおつくし会」というところがあります。

【医C】実は私、病院実習しているときに、「献体したいんですけど」と80歳くらいのおばあさんが来られまして、「みおつくし会」を紹介したことがあるんです。

【医D】臓器提供と同じ感じなのですが、ご本人に亡くなる前に、解剖についての了承を得ます。



## 学外の活動について

【生D】サークルなどの活動とかはされていますか？

【医D】そうですね。医学は西洋から入ってきたもので、それは病気が何で病気のこれを治療したら治りますよというもの。そういう医学を私たちは基本的に習っているんですけど、東洋医学、漢方をする方がうちの大学にもいらっやして、その先生は「西洋医学は病気を見るけど、東洋医学は人を見るんだよ」と言われました。それが1回生のころで、「ああそうか、そしたらコミュニケーションも学ぼう」と思って、入ったのが医療の現場のコミュニケーションを学ぶサークルです。お医者さんと患者さんのやりとりという、医療現場に即したシナリオを作り、参加者さんに体験してもらおうというものです。

【医C】これは大学の枠組みを超えているんですね。ほかの大学の方、また看護学や栄養士も参加しています。4回生が中心になって、4から6回生に宣伝して、もうぜひこれを皆で一緒に勉強しましょうという感じで集まります。一堂に会して、綿密につくられたシナリオについてやっていきます。重いテーマもあります。

【医A】自分でシナリオをつくっていて泣きそうになるよな。

【三船】「臨床心理」で言うとロールプレイということですね。

この後も、大学の垣根を越えた研究会や勉強会の様子、海外の大学との交換研修に参加した経験、留学準備やそのための英語研修、また各々が医学や臨床心理学を目指したきっかけや、医師としての将来の希望、臨床心理士としての将来目標などについて一人ひとりの思いを語り、聞きながら、日が暮れることも忘れて真摯な対話は続いていった。

## 【インタビューを終えて】

当日集まってくれた学生たち8名は、学部は違えども、いずれも病む人々の心を知り、自分にできる何らかの働きかけをしたいと願っているところがあり、大学の講義やゼミという枠をはみ出して、もっと様々な場で学ぼうという意欲が感じられた。学生たちにとっても異なる学部間での交流に意義を見いだすよい機会であったようだ。

(医学研究科 中嶋弘一先生)

生活科学部の学生は、医学部生そして市大生の先輩へのインタビューをとおして、その学習の厳しさや真剣さに大いに刺激され、自分たちも自らが選んだコースでどのようなことが出来るか、真剣に考えるきっかけとなりました。また、医学部生たちも自らの体験を語ることで、歩んできた道のりの重要性を改めて感じ取ることが出来たのではないかと思います。両者にとって他学部の学びや学生生活のを知る貴重な体験だったようです。

(生活科学研究科 三船直子先生)

文責：大学教育研究センター兼任研究員  
医学研究科教授 中嶋 弘一  
生活科学研究科教授 三船 直子

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています!

## 経済学部・経済学研究科

### 大学教育推進プログラム

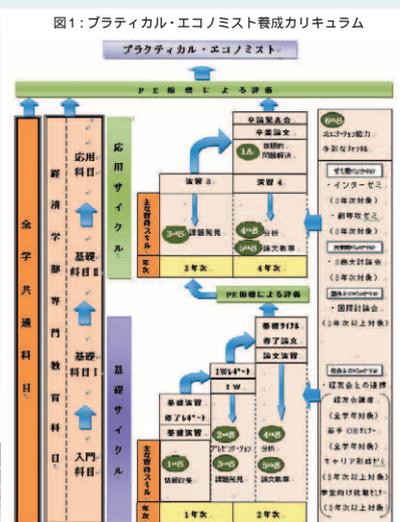
— 4年一貫の少人数教育がユニバーサルに活躍するエコノミストを育てる

#### プラクティカル・エコノミスト とは何か

経済学部の「4年一貫の演習と論文指導がはぐくむ学士力」は、2009年度に文部科学省の「大学教育推進プログラム」に認定されました。この取り組みは、2段階サイクルの演習カリキュラムの各段階で、教育と学修の成果的確な評価を通じて、経済学部の人材養成目標であるプラクティカル・エコノミスト(以下、PE)の育成をめざすものです。PEとは、社会が直面する課題を的確に捉え、それを経済学の素養を生かして分析し、解決の方途を複眼的な構想力をもって立案しうる人材を指しています。その育成の到達点は、4年間の演習型授業をとおして習得する6つのスキルと1つのアビリティ(以下、6S+1A)によって測られます。

#### 2段階に分かれた演習のサイクル

経済学部の演習カリキュラムは、1・2年次の基礎サイクルと、3・4年次の応用サイクルの2段階に分かれています。これと、入門から応用までの体系的・段階的な講義科目の履修とが結びつくことで、6S+1Aの確実な修得が保証されます(図1参照)。



#### 自発的な学びの態度は基礎サイクルの演習で培われる

- 1・2年次の「基礎サイクル」で開講される演習は、以下の3つです。
  - \* 基礎演習(1年次前期): 情報を的確に収集するスキル(1st S)を中心とする基礎的なアカデミック・スキルを身につけます。
  - \* イノベティブ・ワークショップ: IW(1年次後期と2年次前期): 現代社会における課題に共同で解決策を練りあげる演習です。ここでは、プレゼンテーション・スキル(2nd S)と課題発見能力(3rd S)を養成します。
  - \* 論文演習(2年次後期): 自ら設定した課題について、学術論文の体裁を整えた「基礎サイクル修了論文」を書き、経済学的分析力(4th S)と論文執筆力(5th S)を養います。

#### 複眼的な構想力は応用サイクルで養われる

3・4年次の学生は、各専門分野の教員のもとで「演習3」(3年次)と「演習4」(4年次)に所属します。3・4年次の応用サイクルでは、それ以外にも以下のような科目や企画が提供され、ゼミ間、大学間、

海外、社会人とのコミュニケーション・スキル(6th S)を養います。

- \* 副専攻の演習3(3年次): 探究心旺盛な学生が、主専攻の「演習3」以外に副専攻の「演習3」を履修し、知識と視野を広げることができます。
- \* キャリア形成ゼミ(2・3年次): 社会人講師が提示する課題について学生が調査・研究・発表する演習です。アカデミズムとは異なる実社会の見方を学びます。
- \* インター・ゼミ(3年次前期): 「演習3」での研究の成果を発表しあうゼミ対抗合宿です。プレゼンテーション・スキル(2nd S)の熟達度が試されます。
- \* 3大学国際シンポジウム(3年次後期): 大阪市立大学経済学部、韓国・全南国立大学経営学部および中国・吉林大学経済学院の国際学術シンポジウムの一環として、3大学の学生が英語で討論しあう学生セッションが設けられています。
- \* 3商大ゼミ討論会(3年次後期): 60年以上の伝統をもつ大阪市立大学・一橋大学・神戸大学の3商大ゼミ討論会は、3大学の3年生がゼミでの研究成果を発表し競う一大イベントです。



#### プラクティカル・エコノミストとしての成長はPE指標で測られる

学修を通じて各学生の成長度を客観的数値で示すために、「PE指標」が開発されました。PE指標は、学生が6S+1Aを十分な程度に、またバランス良く修得するほど、あるいは専門教育科目以外にも幅広い視野の科目を修得するほど、その値が高くなるように設計されています。

学生は、各授業の履修で修得したスキルのバランスを「6S+1Aレーダーチャート」によって一目で知ることができ、現在までに身につけた能力を知るだけでなく、今後の科目履修の参考にすることができます。

各学生のPE指標の値とレーダーチャートとを示した「PE成績表」(図2参照)は、各学年末に成績表と同時に個人に配布され、自身の成長の確認や、他者との比較が可能です。

また、各学年でPE指標の値が上位10位以内の学生には、「エクセレント・プラクティカル・エコノミスト証明書」が交付されます。

なお、この取り組みの詳細は、専用のホームページ(<http://www.econ.osaka-cu.ac.jp/Gakushi/>)でも見ることができます。

図2: PE成績表(イメージ)



大学教育研究センター兼任研究員  
経済学研究科准教授 松本 淳

学部研究科 教育・FD 紹介

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています！

## 法 学部・法 学研究科

### リーガル・マインドの養成

法学部では、より広く、社会科学的な素養と法的思考力(リーガル・マインド)を身につけ、人権感覚豊かで有能な民主主義社会の担い手となりうる人材を養成することを教育の理念・目的としています。

特徴的なものとして、まず、1回生前期の「基礎演習」があります。基礎演習では、1回生全員が25人程度のクラスに分かれて、法学・政治学の基礎を学びます。内容は担当教員によって多少異なりますが、グループに分かれて死刑制度や少年事件といったテーマについて報告をしたり、法学に関連する基礎的な文献を輪読したりします。さらに、卒業生を招いて、学部で学んだ内容を実際にどのように社会で活かしているかについて話を聞く機会も設けています。このようなプログラムにより、その後の学士課程においてより専門的に学ぶために必要な、文献・資料を調査・分析する能力や、発表や討論などを適切に行うためのコミュニケーション能力について、基礎力を養います。

1回生の後期からは、憲法や政治学といった法律・政治学



法学研究科法曹養成専攻における授業

の講義科目の履修がスタートします。そして、3回生および4回生では「演習(ゼミナール)」が開講されます(以下「ゼミ」とします)。ゼミは、法学部の教育の根幹であり(専門教育では、ゼミ(4単位)のみが必修科目です)民法・労働法といった実定法分野から、基礎法分野(法哲学、日本法制史など)、国際関係法・外国法分野(国際法、中国法など)、政治学分野(行政学など)まで、各自が自らの関心に従って選択することができます。ゼミの定員は、原則として15名以下となっており、少数の関心を同じくする学生同士が集まって、担当教員との間で、また、学生相互間で議論をすることにより、切磋琢磨して、より高度な専門性とコミュニケーション能力を養います(ゼミ合宿や刑務所訪問を行ったり、ゼミ論文を必須とするゼミもあります)。ゼミを通じた友人関係や教員との関係は、卒業後も続くものです。かつては、法学部に属する全教員がゼミを担当していたのですが、ロ

ースクールの開設により、約1/3の教員がゼミを担当しない状態が続いており、学生の選択肢が以前より狭くなっているところが少し気になる点です。

なお、法学部に所属する学生および教員は、「法学会」という学術・親睦団体に属しています。法学会は、裁判所傍聴見学会の主催や各種の学術講演会の支援などを通じて、法学部における教育をサポートしています。



大阪市立大学法学叢書：法学部の教員が執筆し、有斐閣より刊行される研究書のシリーズ。昭和26年に第1巻が刊行されて以来、現在では合計59巻に及ぶ。

法学研究科法学政治学専攻では、基礎法・政治学関係の研究者や、歴史分析、基礎法理論に裏打ちされた研究活動を自立して行える実定法研究者の養成を目指すとともに、公務員、学校教員、裁判所職員、国際関係機関職員等をめざす学生、および、それらの職にある職業人に対して、基本的な外国語文献を講読する授業などを通して、複雑な社会現象を的確に把握・分析し、解決策を提示しうる専門的な法知識と高度の応用能力を有する高度職業人の養成を目指しています。

法学研究科法曹養成専攻では、大阪市の市域に設置される唯一のロースクールとして、大都市であるがゆえに発生する様々な法的問題に即応できる高度な法的能力を備えた、真のプロフェッショナルとしての法曹の養成を目指しています。そのため、修了に必要な94単位のうち82単位は必修または選択必修科目となっており、基本的な知識を定着させるために積み上げ式のカリキュラムが採用されています。また、学生約15人について2名の教員が担当となる担当教員制度を採用するなど、きめ細やかな少人数教育が試みられています。

大学教育研究センター兼任研究員  
法学研究科教授 小 柿 徳 武

ウチの学部・研究科ではこんな教育を行っています!

## 理学研究科・数物系専攻

### 「『アインシュタインの物理』でリンクする研究・教育拠点」における大学院生育成

#### 『アインシュタインの物理』とは?

少々長い名称ですが、『アインシュタインの物理』でリンクする研究・教育拠点は大阪市立大学の学内重点研究の一つで、2008年度から5年間の計画で行われています。アインシュタインは「相対性理論」で広く一般にも知られた20世紀最高(といって差し支えないでしょう)の理論物理学者です。この相対論と、やはりアインシュタインが創設に深く関わった「量子論」が現代物理学の大きな柱です。ですから「アインシュタインの物理」を拠り所として、物理学の各分野で連携し、新しい研究や教育のアイデアを得ようというものです。

この研究では、毎年10月に大学内外の物理学研究者を集めて研究会を行っています。研究会では現代物理学のトピックスをとりあげていますが、普段は別々の研究会で発表される内容、あるいは物理学会では異なる分科会に属するさまざまな話題を集めています。それらが「アインシュタインの物理」によってリンクされ、とても興味深い議論が行なわれています。過去3年の研究会の参加者は80人前後で本学以外からも多くの人々が参加して関西の物理研究の一拠点としての市大の役割に貢献しています。



学外参加者も多い「研究会」

#### となりは何をする人ぞ? ~リンクする教育~

物理学は、微細な素粒子、身の回りの物質、宇宙といった、さまざまな大きさ、時間、エネルギーの自然現象を研究対象とします。そして、こうしたスケールや階層の異なる自然現象にまたがる普遍的な法則が見いだされるのが物理学の醍醐味です。物理を学ぶ学生は、この「普遍性・一般性」についての観点を会得せねばなりません。一方で、現代の高度に発達した学問の例にもれず、物理学も専門化・細分化がなされています。これは、研究の目的を明確にしたり効率をあげるためには必要なことでもあります。多くの大学院生が、専攻する分野を学ぶことによってその分野のスペシャリストとしての知識やスキルを身につけてゆきます。



冬のセミナー(白馬セミナーハウスにて)

しかし、分野にとらわれずにいることで新しいアイデアを得られる場合も多々あります。南部陽一郎先生が素粒子物理学の研究で2008年にノーベル物理学賞を受賞しましたが、その研究のアイデアは物性物理学の理論と関係しています。

『アインシュタインの物理』を始めるにあたっては、大学院生に分野横断的な教育を提供することを目的の一つにしました。「となりは何をする人ぞ?」「別な研究室では何をやっているのだろうか?」という関心を持って、ということです。他分野の研究を知り、質問を受けることで、新しい知見や視点を獲得できます。分野を越えて議論するためには、物理学の普遍的な「語法」(すなわち、論理的説明や数式の使用など)を身につけることも必要になってきます。

#### 楽しい(?)冬の合宿セミナー

こうした横断的な見識は、聞くだけで身に付くものではありません。自分自身が発表し質問を受けることが成長を促してくれますが、短時間の発表・質疑ではその場しのぎになってしまい、絶対的な力量を育成するのに不足です。

そこで、『アインシュタインの物理』では冬に2泊3日泊まり込みの合宿セミナーを行っています。合宿と聞くと、たいそう楽しいような印象があります。たしかに、「物理漬けで楽しい」合宿です。ただし一般的な意味ではどうだかわかりません。移動を除く正味2日に、みっちり、夕飯後も夜9時頃までセミナーを行います。発表は1件当たり約1時間で、質問も議論もまったく容赦がありません。(おじさん世代には、合宿よりも「虎の穴」と説明したほうがよいかもしれません。)

最大の課題は「他の研究室の学生にわかるように発表する」ことです。もちろん細かい話を1時間やそこらで全て理解するのは不可能ですが、少なくともその分野の導入的な説



冬のセミナー(「みさと天文台」を訪問)

明をきちんとやることを求められます。このことは、参加した院生諸君にはすばらしくよいトレーニングとなっています。聴衆の多くが、物理の「語法」は理解していますが、各人が研究で専門とするところは異なります。入門的な説明には、自分の研究だけでなく、その分野の背景や位置付けをよく理解しておく必要があります。普遍性を持った視点で説明することも大事です。また1時間講演というのは、学会の一般講演や修士論文の発表会よりずっと長い時間です。

この発表をくぐり抜けた学生諸君には確実に一回りの成長が見られます。発表準備と質問対策で手一杯だった学生たちが、他人の発表に耳を傾け、質問や議論を楽しめるようになってきます。

筆者は、今年の冬も、院生諸君と過ごす物理漬けの3日間を心待ちにしています。

理学部・理学研究科教授 神田 展行  
(学内重点研究「『アインシュタインの物理』でリンクする研究・教育拠点」代表)

学部研究科 教育・FD 紹介

市大教育ニュース!

## 短期英語研修

# ビクトリア大学 短期英語研修プログラム

English Language Centre,  
University of Victoria (カナダ) で過ごす春休み



本場の英語に触れながら、  
あなたの英語力をアップ!



カナダ西海岸、バンクーバー島の南端、安全清潔、風光明媚なビクトリアで「生きた英語」を学びませんか。最高水準の英語指導技術、優秀な講師陣、フレンドリーな学習環境の中で英語を学び、異国の文化に触れながら過ごす貴重なひと時を経験できます。

費用: 40万円(予定)  
参加者: 20名程度  
(応募者多数の場合は選抜します)  
引率者: 教員1~2名

Photo : Tourism Victoria

## English Café Open中!

English Caféには15台のPCが設置されているほか、英語の新聞や雑誌、CD、DVDなどが置かれています。英語を学びたい学生であれば、だれでも自由に利用できます。場所は全学共通教育棟(8号館)5階です。



**ネイティブの先生と  
楽しくおしゃべりしませんか!**

English Caféでは、月曜日、水曜日、木曜日の午後4時30分から1時間、OFFICE HOURを設けています。この時間にネイティブの先生がみなさんをお待ちしています。なにを話すのも自由。楽しい時間をお過ごしください。



興味のある方は  
英語教育開発センター  
(全学共通教育棟5階)  
まで

大阪市大の学生は1年次と2年次にCollege Englishを履修します。College English (CE)は1年次はネイティブ・スピーカーの教員が授業を担当(一部例外あり)、1クラス25名程度の少人数制といった特徴がある英語のクラスです。

英語教育開発センター

## 大学教育研究センターは「こんなこと」に「こんなメンバー」で取り組んでいます!

### FD 活動

#### (1) FD 研究会 (年 1 回)

FD 研究会は、大阪市立大学における教育の向上を図るための組織的な研修や教育に関する研究活動の成果に関し、全学的な交流を図る場として設定されています。例年、100 名前後が参加する大きな研究会です。2010 (平成 22) 年度の全体のテーマは「本学の FD の現状と課題 II ~ 教育を充実させる組織的 FD とは?」でした。



#### (2) 教育改革シンポジウム (年 1 回)

教育改革シンポジウムは、全学的に共有が可能なホットピックについて、大学内外の情勢を鑑みながら考えを深めることを目的に開かれています。第 17 回目を迎えた 2010 (平成 22) 年度は「学士課程教育の構築 この課題をどう受け止めるか」をテーマに開催し、立教学院の寺崎昌男先生に講演をしていただきました。



#### (3) FD ワークショップ・大学教育研究セミナー (年 2 ~ 4 回)

FD ワークショップと大学教育研究セミナーは、ワークショップ形式またはラウンドテーブル形式等を取り、主に学内の参加者間で授業デザイン事例など教育実践事例や大学教育にかかわるホットピックの紹介とそれらについての意見交換を行う場として設定されています。

### 研究成果の発信と広報

#### (1) 大阪市立大学大学教育研究センター紀要『大学教育』

主として本学の教育に資する研究成果の発表の場として、学内はもとより全国から投稿を募り、年に 1 ~ 2 回発行する、査読付きの学術雑誌です。センターの FD 活動・研究活動の報告の場でもあります。

#### (2) 大学教育だより & Un roseau (アン ロゾ)

教員および学生を対象として、大阪市立大学におけるさまざまな教育への取り組みをまとめた広報誌『大学教育だより』を年 1 ~ 2 回発行してきました。また、大阪市立大学での学びの道しるべとして全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アン ロゾ』を発行し、学生のみなさんに配付してきました。2006 年度からこれら 2 冊を合冊として、より充実した内容として発行し、一層幅広く配付することとしました。

### センターの研究活動

高等教育のグローバル化・ユニバーサル化 (進学率が 50 パーセントを超えた状況) がすすむ今日、大学卒業までに学生が最低限身に付けなければならない能力や資質を教育の目標として設定しようという動きが国際的に強まっています。学士課程が大学教育の焦点の

一つとなっているのです。

こうした動向をふまえて、センターでは本学にふさわしい学士課程教育のあり方を探るために、次のような調査研究を進めています。

#### (1) 教育実践研究

多人数授業でも学生が参加型で学べる active learning を展開する教育方法を開発したり、キャリアデザイン教育などの今日的テーマでの教育実践のあり方を検討したりするために、大学教育研究センター専任研究員の授業の場などを活用して、教育実践研究を行っています。研究成果は、前述の FD 活動でも触れられている授業デザインに関するワークショップなどでも報告されました。

#### (2) 初年次教育に関する調査などの部局訪問調査

大阪市立大学には 8 つの学部と 9 つの大学院があり、それぞれの特徴を生かした教育が行われています。大阪市立大学全体の教育を考えていく上では、各部局でどのような取り組みが行われていて、どのような成果が上がっているのかを実際に良く知る必要があります。そのため、大学教育研究センターの研究員が各部局を訪問させていただいて、教育に関する様々な話を伺っています。2010 年度は主に初年次教育に関するヒアリング調査を実施しました。

#### (3) 卒業生アンケート調査

本学の教育の質を改善し、さらに高めること、および卒業生と本学とのつながりを強化しサポートするための基礎情報を集めることを目的として、大学教育研究センター (入学者追跡調査委員会) と本学同窓会が共同で卒業生の実態と意識を調査しました。なお、今回は調査の実施条件が整った商、経、法、文、工の 5 学部で実施しましたが、将来的には全学部での実施を考えています。具体的には、2009 年 3 月末現在で学部卒業後 3 年を経過した卒業生を対象として、本学の教育をふり振り返り、在学中に何を学んだと実感しているのか、また、本学での学びや生活においてどのような問題に直面したのか、あるいは本学に対する意見や要望、また同時に本学同窓会についてもその意識、あるいはその在り方や要望についてなどを 2009 年 12 月に郵送によるアンケート方式で調査を行いました。回収したアンケートを基に集計結果を 2009 年度卒業生アンケート集計結果報告書 (2010 年 3 月) としてまとめましたが、その後も分析を継続しその結果報告を近々行う予定です。

#### (4) FD のあり方について

大阪市立大学にふさわしい学士課程教育を実現するためには、本学の教員はもとより職員や学生も含む全構成員が、本学が掲げる大学の理念や教育目標を共有し、その実現のために協力し合うことが重要です。センターでは、FD (ファカルティ・ディベロップメント) を、本学の教育の質の維持と一層の向上のための、構成員全体の自律的に組織的な取り組みとして捉え、各部局で近年急速に活発化が進みつつある各種の教育改善・FD の取組への協力・支援を行っています。その一環として、全学的な FD 研究会や教育改革シンポジウム、授業デザインワークショップなども企画・実施しています。

また、本学の全構成員が自律的かつ恒常的に関わっていき、教育改善や FD の方向性とあり方についての考え方をまとめて提案することによって、本学の教育改善や FD に関する学内における議論を深めています。

### 大学教育研究センターの研究

大阪市立大学 大学教育研究センターは、大学を取り巻く新しい環境の中で、社会の進路を見据えた大学教育のあり方を実現することを目指して研究と開発をすすめるために設立されました。

右記の3本の柱を基本に据えつつ、相互に強く関連をもつ各種プロジェクトに取り組んでいます。

#### 高等教育の制度や その役割についての研究

- (1) 学士課程教育システムのあり方
- (2) 学生相談・学習相談システムのあり方
- (3) 社会における大学のあり方
- (4) 生涯学習社会における大学のあり方

#### 全学的FD活動 各種研究プロジェクト

#### カリキュラム・教育方法の 開発に関する研究

- (1) 学士課程のカリキュラムおよび教育方法の開発
- (2) 初年次教育カリキュラムのあり方
- (3) 授業改善支援システムのあり方

#### 大学教育の 評価および教員評価の あり方に関する研究

- (1) 大学教育評価のあり方
- (2) 大学教員評価のあり方
- (3) FD活動のあり方

### 大学教育研究センタースタッフの紹介 (平成23(2011)年3月現在)

#### 所長 .....

桐山 孝信  
副学長

#### 専任研究員 .....

矢野 裕俊  
副所長 大学教育研究センター教授  
研究分野 ... 生涯学習社会における  
学校教育の役割 / 学校カリキュラム

大久保 敦  
大学教育研究センター准教授  
研究分野 ... 高校大学の接続 / 科学  
教育 / 古植物学

西垣 順子  
大学教育研究センター准教授  
研究分野 ... 大学教育の評価に関する  
研究 / 教育心理学

飯吉 弘子  
大学教育研究センター准教授  
研究分野 ... 社会における大学のあり  
方に関する研究 / 教育学 / 大学教育史

渡邊 席子  
大学教育研究センター准教授  
研究分野 ... 教育支援システムの  
開発 / キャリア教育 / 社会心理学

#### 兼任研究員 .....

中瀬 哲史  
経営学研究科教授

橋本 文彦  
経済学研究科教授

松本 淳  
経済学研究科准教授

小柿 徳武  
法学研究科教授

滝沢 潤  
文学研究科准教授

松浦 恆雄  
文学研究科教授

海老根 剛  
文学研究科准教授

高橋 太  
理学研究科教授

荻尾 彰一  
理学研究科准教授

日野 泰雄  
工学研究科教授

鳥生 隆  
工学研究科教授

中嶋 弘一  
医学研究科教授

廣田 麻子  
看護学研究科講師

三船 直子  
生活科学研究科教授

大西 克実  
創造都市研究科准教授

荻田 亮  
都市健康・スポーツ研究センター准教授

#### 事務局 .....

垣谷 篤  
学生支援課長

松川 恵子  
学生支援課員



#### 編集 後記

大阪市立大学の教育的取組や学習活動に関する広報誌『大学教育だより』と全学共通教育総合教育科目ガイドブック『アンロゾ』の合冊発行は、今回で5回目となりました。『だより』の学生の声紹介「Voice」のコーナーでは、阿倍野キャンパスにある医学部学生の皆さんの学ぶ様子を、生活科学部の臨床心

理学専攻の学生さんたちがインタビューしてくれました。人の身体や心の病気と健康について学び向き合おうとしている両学部の学生さんたちが、4時間近くにもわたって真剣に話しをしてくれました。また、各部署の最近の教育的取組についてのコーナーでは、経済、法、理の3学部・研究科が紹介をして下さいました。それぞれの学部・研究科での特色ある教育の取組について

知ることができると思います。是非、他学部・研究科の学生の皆さんも読んでみてください。『アンロゾ』では、理学研究科の附属植物園の植松先生、本センターの矢野先生から、新入生を初めとする学生の皆さんに、学びの広がりや意味について語りかけて下さっています。是非ゆっくり読んでみて下さい。

大学教育研究センター

### 大学教育研究センター紹介